



香美町学校間スーパー連携チャレンジプラン

学力向上ステップアップ授業



R元.7.24 兵庫県美方郡香美町 香美町教育委員会

本町の学校と児童数の現状

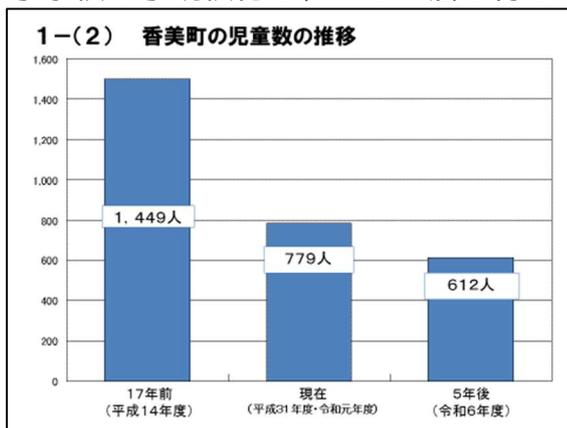
私たちのまち香美町には、小学校10校、分校1校及び中学校4校があります。

17年前の平成14年度に1,449人いた小学生が、今年度（令和元年度）は779人になっています。これが、5年後の令和6年度には612人になると見込まれます。【図1】

【図2】は、令和元年5月1日現在の各小学校の学年別児童数を一覧にしたものです。

香美町内の全小学校10校中、香住小学校を除く9校は、すべて1学年1学級です。太枠で囲んだ学年は複式学級（2つ以上の学年の児童を1つに編制した学級）で、奥佐津小学校・長井小学校・余部小学校では、全学年が複式学級となっています。

全国的に少子化が進む中で香美町においても過疎化・少子化が進行し、それにともない小学校の小規模化が、より一層進行しています。



【図1】

学校名	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
奥佐津小	3	3	6	2	3	6	23
佐津小	4	5	2	3	11	3	28
柴山小	8	11	11	7	13	11	61
香住小	56	74	60	53	53	59	355
長井小	2	6	4	6	3	4	25
余部小	2	2	5	2	6	3	20
御崎分校		1	1				2
村岡小	8	11	9	19	11	12	70
塚塚小	9	5	12	10	15	11	62
射添小	12	5	9	10	9	11	56
小代小	9	10	10	12	21	15	77
							779

太枠 = 複式学級

【図2】

香美町における「兵庫型教科担任制」の推進について

1 推進学年及び教科

- (1) 推進学年 第5・6学年
- (2) 実施教科（令和元年度）
 - ・教科担任制（理科・社会・音楽・図工・家庭）
 - ・少人数授業（算数・理科・外国語）

2 具体的推進方法

- (1) 教科担任制
 - ・5、6年担任による交換授業を行う。
 - ・担任外教員による教科担任としての授業を行う。
- (2) 少人数授業
 - ・加配教員と担任が、学年又は学級をいくつかの少人数学習集団に編成し、同室複数指導や、効果的な少人数指導を行う。

香美町学校間スーパー連携チャレンジプラン・学力向上ステップアップ授業の目的

小規模校の長所を生かしながら、多人数での授業に取り組むにはどうすればいいか。

保護者や地域住民の、小規模校の少人数での学習に対する不安の解消と、児童の確かな学力の定着をめざし、これまでにない新しい発想、新しいチャレンジとしての方策が、「香美町学校間スーパー連携チャレンジプラン・学力向上ステップアップ授業」です。

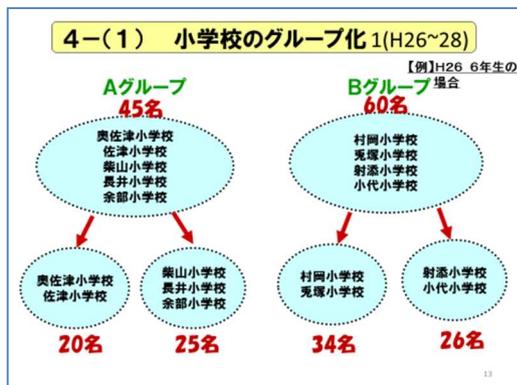
目的

- (1) 小規模同士の学校間連携を通し、多人数を編成し、効果的な指導方法と授業内容を開発するとともに、確かな学力の定着を図る。(わくわく授業)
- (2) 複数の教員が役割を分担し、児童へのきめ細かな指導を行い、主体的で対話的な学びを行う。(わかった授業)
- (3) 児童の生きる力を育成するとともに、教職員の資質向上を図り、保護者や地域から信頼される学校づくりを推進する。

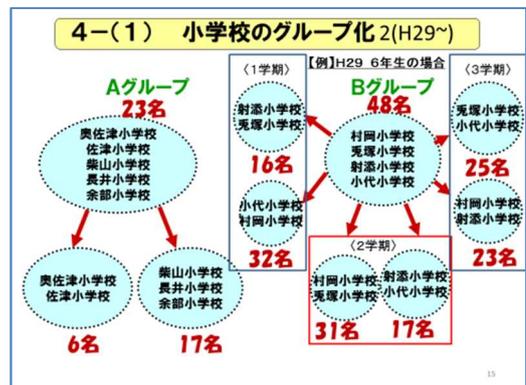
平成25年4月よりスタート

グループ編成について

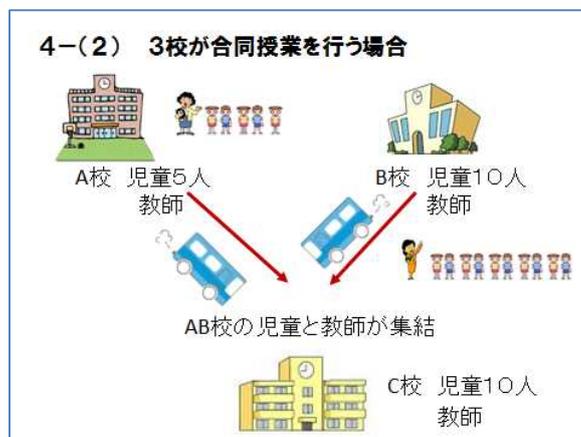
町内の小規模校9校を、Aグループ 奥佐津小、佐津小、柴山小、長井小、余部小、Bグループ 村岡小、兔塚小、射添小、小代小 の2つのグループに分け、各グループ内の同学年同士で多人数授業を実施しています。(【図3・4・5】)



【図3】



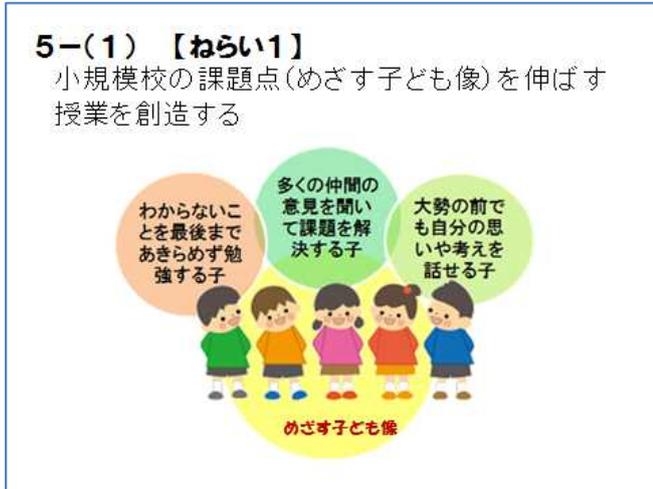
【図4】



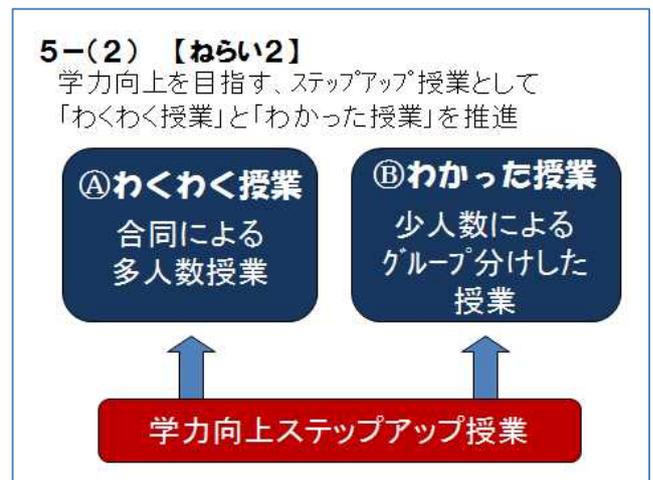
【図5】

合同授業づくり

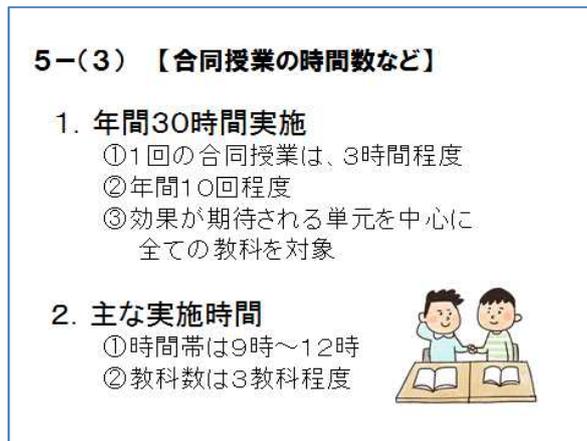
チャレンジプランでは、小規模小学校の課題とする、人間関係の固定化・序列化や社会性の不足などの不安を解消するため、「わからないことを見通しを持って粘り強く学習する」(主体的な学び)、「大勢の前でも自分の思いや考えを話し、仲間の意見を聞いて課題を解決できる」(対話的な学び)、「知識を相互に関連付けてより深く考える」(深い学び)などのめざす子ども像(【図6】)に沿った授業(【図7・8】)を展開しています。



【図6】



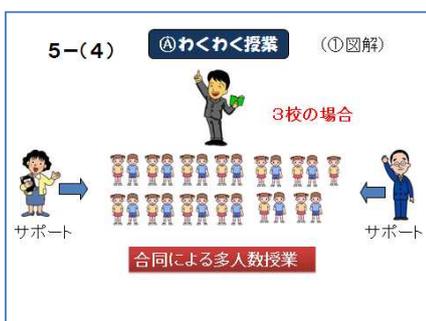
【図7】



【図8】

わくわく授業

「わくわく授業」は現状の児童数を大きく上回る多人数授業です。多人数での多様な形態や様々な意見による新たな学習効果が見込まれる「授業づくり」を、複数教師が協働性・専門性を生かして行います。児童が「わくわく」し、興味・関心を持って取り組むような「授業づくり」をめざします。(【図9・10・11】)



【図9】



【図10】



【図11】

わかった授業

「わかった授業」は、きめ細かな指導ができる少人数にグループ分けした授業です。児童の学習到達度や関心度などに応じて分けたグループにより、学習効果が見込まれる少人数授業を行います。(【図 12・13】)

つまづきを克服するために、1つずつ「わかった」と理解を積み上げられるような「授業づくり」をめざします。



【図 12】



【図 13】

6年経過(H30)しての成果と課題

【6年経過(H30)しての成果】

1 児童

- (1) コミュニケーション能力(話す力・聞く力)の向上
- (2) 人間関係構築力・積極性の向上
- (3) 中1ギャップの解消
- (4) 中学校における学年始めの安定感の向上
- (5) 社会性の向上
- (6) 毎月のチャレンジへの期待感(楽しみ)の高まり

【課題】

- 1 事前準備、教材の選択と検討時間確保
- 2 複数校での日程調整が困難
- 3 専科授業等、通常授業への影響
- 4 評価ならびに成果の検証
- 5 特別な支援・配慮等が必要な児童の理解と情報の共有化
- 6 チャレンジプランの意義・方針の継承と再確認(教職員の異動・世代交代)
- 7 複式学級を有する学年の授業確保等

【保護者の感想】(H30アンケート結果)

- 1 「意義のある取組だと思う」(回数を増やしてほしい、内容の充実を図ってほしい、現状を継続してほしい)と感じている保護者が93.3%
- 2 期待することとして
 - 「コミュニケーションの取り方や人間関係づくり」(74%)
 - 「大勢の前ではっきり話せること」(62%)
 - 「いろいろな意見を聞いて考える力を伸ばすこと」(66%)
- 3 「子どもがチャレンジプランを楽しみにしている」と感じている保護者が78.5%
(「どちらかといえば楽しみにしている」20.1%)

今後も、効果と検証を繰り返し、児童の生きる力の育成に向け、教育関係者一丸となって邁進してまいります。